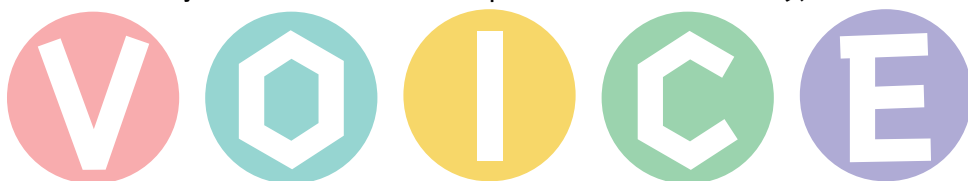


# 酪農中



日本酪農の  
最前線的话题を  
ご紹介



審査員長の田中穂積氏は、「国産チーズに関する施策が始まって40年経ち、日本のチーズ製造技術は海外でも高い評価を得られるまでになった」と述べ、他の審査員らも「どの作品もおいしく、レベルが高い」と評価

国産ナチュラルチーズの製造技術向上や販路拡大を図ること等を目的に、平成9年度から開催されている同コンテスト。令和元年10月29日〜30日に、東京プリンスホテルにて第12回が開催されました。ナチュラルチーズの専門家およびチーズに造詣の深い著名人を審査員に迎え、一定の評価基準により、非公開による第1次〜第3次審査、公開による最終審査を2日間にかけて行い、上位3賞（農林水産大臣賞、独立行政法人農畜産業振興機構理事長賞、一般社団法人中央酪農会議会長賞）等が選出されました。

昨秋、(一社)中央酪農会議は、東京にて「第12回 ALL JAPAN ナチュラルチーズコンテスト」を開催しました。今回は、過去最多の全国86製造者から203品目の出品があり、栄えある農林水産大臣賞を川瀬チーズ工房（北海道）の「フリル」が受賞しました。



## 第12回 ALL JAPAN ナチュラルチーズコンテスト

しました。

農林水産大臣賞を受賞した川瀬チーズ工房の川瀬昭人氏は受賞コメントにて「これまで以上に良いチーズを作るように努力していきたい」と今後の抱負を真摯な言葉で述べました。

表彰式終了後は、コンテストに出品されたチーズの展示試食会等が行われ、一般参加者や流通関係者など約700人が多種多様なチーズを味わいました。

フリル



農林水産大臣賞 川瀬チーズ工房

じゅくし柿



(独) 農畜産業振興機構理事長賞 三良坂フロマージュ

茂喜登牛



(一社) 中央酪農会議会長賞 しあわせチーズ工房

ラクレット



審査員特別賞 (有) NEEDS

一般公開による最終審査



▲上位3賞と審査員特別賞の受賞者

▼授賞式後の、大賑わいの展示試食会



# 地域交流牧場全国連絡会 20周年記念式典開催

令和元年10月24日、北海道釧路市にて、全国から70名を超える会員、関係者が集い、消費者との交流活動を行う牧場のネットワーク組織である地域交流牧場全国連絡会(以下「交牧連」という)の20周年記念式典が開催されました。設立20周年の節目にこれまでの活動を振り返り、これからの活動に向けて歩み出す契機となりました。

次の10年へ、今、ここから共に歩んで行こう

まず、交牧連の渡辺隆幸会長(北海道・渡辺体験牧場)が挨拶し「20年を振り返り、私たちはこれから何をすべきか確かめたい。次の10年に向けて、今、ここから共に歩んで行きましょう」と、会員の皆さんに語り掛けました。

続いて、3人の来賓から祝辞がありました。はじめに、農林水産省北海道農政事務所釧路拠点地方参事官の吉光成人氏は、「都府県の酪農生産が減少を続け、対外的にはT P P等の影響を受けるなか、国内の農林水産業の生産基盤を確保することが重要」と述べました。

次に、ホクレン農業協同組合連合会代表理事副会長の瀧澤義一氏は、「今年はNHKで連続テレビ小説『なつぞら』が放送され、酪農家の存在が一般にも意識されたが、交牧連はその20年前から活動に取り組んできた」と、交牧連の活動に敬意を表しま



最後に、(一社)中央酪農会議の迫田潔専務理事が、「消費者交流を行い、堅調な牛乳の消費を下支えする交牧連の活動の意義は大きい。今後も消費者に日本酪農や国産牛乳・乳製品の大切さを伝え続けていってほしい」と述べました。

## 地域交流牧場全国連絡会 20周年記念式典 宣言

地域交流牧場全国連絡会は、日本酪農に対する理解・支援の獲得を目的として、平成11年7月に、酪農家自らにより設立されました。

このたび、設立20周年を迎えるにあたり、ここに20周年記念式典を開催し、本会のこれまでの活動実績や会員同士の繋がり、そして指定生乳生産者団体をはじめとした関係者との協力関係を改めて認識しました。

これを節目に、さらなる10年に向けて本会をより発展させるべく、宣言致します。

- 「日本酪農の魅力や意義を伝えたい」という思いを強く持ち、各地域で行う酪農教育ファーム活動、自家製乳製品の製造販売などを通じ、日本酪農の理解醸成を図り続けます
- この20年間で築き上げた会員同士の絆を、熱い気持ちで未来へ繋げます
- 変わりゆく酪農情勢を踏まえ、活動に創意工夫を凝らし、本会のさらなる発展と周知に取り組みます
- 会員の一人ひとりが酪農の仕事に誇りを持ち、努力し続けることで、子どもたちが憧れ、地域に求められる酪農家を目指します

令和元年10月24日  
地域交流牧場全国連絡会  
20周年記念式典

以上、宣言します。



その後、加茂太郎副会長(千葉県・加茂牧場)、砂流裕美子副会長(鳥根県・砂流牧場)の司会進行のもと、交牧連20年の活動について報告がなされました。報告の間には交牧連と酪農にまつわるクイズも出題されるなど、和やかに式典は進行了しました。

### 東日本大震災復興支援事業

最後に、近畿中国四国ブロックのクラブユース代表、小林拓さん(鳥根県・小林牧場)が、今後に向けて力強く「宣言」を行い、式典を締めくくりました。

### クラブ・ユース事業

酪農後継者や若手を支援する「クラブ・ユース事業」について、大井幸男さん(岐阜県・大井牧場)が報告し「酪農を目指す学生、業界関係者ともつながり、酪農主体の発展に資する活動としていきたい」と決意を語りました。

### 全国7ブロックの活動

#### 北海道ブロック

小川文夫さん(北海道・小川牧場)  
60枚の上映資料と、紙芝居「いのちをいたたく」を妻、小川優子さんが朗読して行う青空教室の様子を発表し、「酪農教育ファーム活動にはまさしく人を育てる力がある」と力強く伝えました。

#### 東北ブロック

笠原新一さん(宮城県・蔵王酪農センター)  
東日本大震災復興支援事業の9年間の歩みを動画も交えて発表。「被災地の状況が変化するなか、酪農教育ファーム活動の本来の目的である『学び』へのシフトも含め、検討しながら、これからも続けていきたい」と展望を語りました。

#### 関東ブロック

馬上温香さん(千葉県・銕いすみ高秀牧場)  
わくわくモーモースクールへの協力や、研修会など多様な活動を通じて、酪農家や消費者、学生、ジェネレーターマシンのメーカー、料理研究家など様々な人とのつながりが広がったことを報告しました。

#### 北陸ブロック

澤田真さん(石川県・Harmony with)

カフェのような雰囲気自由に話し合う「ワールドカフェ」形式で実施してきたクラブ・ユースの活動を報告。「若い世代に酪農を伝え続け、新規就農者を生み出していきたい」と希望を述べました。

#### 東海ブロック

小笠原和美さん(愛知県・尙小笠原牧場)  
「会員同士の仲がいい」「事務局と仲がいい」「お手本となるべきレジエントがいる」と東海ブロックの「ここがいい」という点について発表。「今後もがんばっていきましよう」と呼び掛けました。

#### 近畿・中国・四国ブロック

山田保高さん(滋賀県・山田牧場)  
生産調整、B S E問題、飼料価格高騰や、口蹄疫、東日本大震災に言及「農業は『命を移し変える仕事』。それができずに死んでいった動物のことも伝えていきたい」と思いを語りました。

#### 九州ブロック

本部昇さん(宮城県・(株)本部農場)  
力を入れている「教師とその家族のための酪農体験学習会および現地会議」について報告。学校関係者自らに酪農体験をしてもらうことが、教育現場における、より深い酪農理解醸成につながる手応えを語りました。